

科目名	臨床柔道整復学1			学年	2年	期生
担当者				期別	前期	
単位数	1単位			講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回			専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が頭部、脊柱の骨折、鎖骨骨折の発生原因や症状、治療法について教科書を用いて解説する。					
一般目標(GIO)						
頭部、脊柱の骨折、鎖骨骨折の症状や治療法を学ぶ。また、頭部や脊柱の骨折は緊急性の高いものも含むので、応急手当の方法などについても理解を深め、柔道整復師となった後の業務に活かすことを目的とする。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	4	8	3	頭蓋冠骨折	分類、合併症、応急処置を理解する。	
2	4	15	3	頭蓋底骨折	分類、各部の骨折ごとの症状、応急処置を理解する。	
3	4	22	3	鼻骨骨折 上顎骨骨折	鼻骨骨折の原因、分類、症状、続発症と後遺症を理解する。 上顎骨骨折の原因と症状を理解する。	
4	5	13	3	頬骨骨折 下顎骨骨折	頬骨骨折の分類、症状、合併症を理解する。 下顎骨骨折の原因、症状合併症を理解する。	
5	5	20	3	ジェファーンソン骨折 軸椎歯突起骨折	ジェファーンソン骨折の転位の仕方、症状、治療法を理解する。 軸椎歯突起骨折の分類、予後を理解する。	
6	5	27	3	ハングマン骨折 頸椎椎体楔状圧迫骨折	ハングマン骨折の発生機序、治療法を理解する。 椎体楔状圧迫骨折の好発部位、症状、治療法を理解する。	
7	6	3	3	ティアドロップ骨折 椎体破裂骨折	ティアドロップ骨折の症状、治療法を理解する。 椎体破裂骨折の症状を理解する。	
8	6	10	3	棘突起骨折 椎弓骨折	棘突起骨折の原因、症状、治療法を理解する。 椎弓骨折の発生機序、症状を理解する。	
9	6	17	3	上部胸椎棘突起骨折 胸椎椎体圧迫骨折	上部胸椎棘突起骨折の発生機序、症状、経過を理解する。 胸椎椎体圧迫骨折の症状、固定法、予後を理解する。	
10	6	24	3	胸腰椎移行部椎体圧迫骨折 下位腰椎椎体圧迫骨折	胸腰椎移行部椎体圧迫骨折の発生機序、症状、合併症、治療法を理解する。 下位腰椎椎体圧迫骨折の症状、治療法を理解する。	
11	7	1	3	チャンス骨折 腰椎椎体破裂骨折	チャンス骨折の発生機序を理解する。 腰椎椎体破裂骨折の発生機序を理解する。	
12	7	8	3	腰椎肋骨突起骨折 肋骨骨折	腰椎肋骨突起骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 肋骨骨折の発生機序、分類、症状を理解する。	
13	7	22	3	肋骨骨折 胸骨骨折	肋骨骨折の合併症、治療法、固定法、後療法、予後を理解する。 胸骨骨折の分類、症状、合併症、治療法を理解する。	
14	7	29	3	鎖骨骨折	原因、分類、症状を理解する。	
15	8	5	3	鎖骨骨折	鑑別診断、合併症、治療法、予後を理解する。	
評価基準				教科書	参考書	
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版				
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版				
	%					
	%					

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学2		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	前期	
単位数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学2において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。				
一般目標 (GIO)					
<p>柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、</p> <p>本学科では、上肢帯部から上腕骨遠位部骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	4	1	肩甲骨体部・上角下角・関節窩骨折	肩甲骨部の解剖を理解し、各部の肩甲骨骨折について説明できる。
2	4	11	1	肩甲骨頸部・肩峰・烏口突起骨折	肩甲骨骨折について説明できる。
3	4	18	1	上腕骨骨頭・解剖頸骨折	上腕骨近位部の解剖を理解し、各部の上腕骨骨折について説明できる。
4	4	25	1	上腕骨外科頸骨折	上腕骨外科頸骨折について説明できる。
5	5	9	1	上腕骨大結節・小結節部骨折	上腕骨近位部骨折について説明できる。
6	5	16	1	上腕骨骨幹部骨折①	上腕骨骨幹部の解剖を理解し、上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
7	5	23	1	上腕骨骨幹部骨折②	上腕骨骨幹部骨折について説明できる。
8	5	30	1	上腕骨顆上骨折①	上腕骨遠位部の解剖を理解し、各上腕骨骨折について説明できる。
9	6	6	1	上腕骨顆上骨折②	上腕骨顆上骨折について説明できる。
10	6	13	1	上腕骨外顆骨折①	上腕骨外顆部の発生機序を理解する。
11	6	20	1	上腕骨外顆骨折②	上腕骨外顆骨折の症状や骨片転位について説明できる。
12	6	27	1	上腕骨小頭骨折	上腕骨小頭骨折について説明できる。
13	7	4	1	上腕骨滑車骨折	上腕骨滑車骨折について説明できる。
14	7	11	1	上腕骨通過骨折	上腕骨通過骨折について説明できる。
15	7	18	1	上腕骨内側上顆骨折	上腕骨内側上顆骨折について説明できる。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学3		学年	2年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学3において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。				
一般目標(GIO)					
<p>柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、</p> <p>本学科では、前腕近位から前腕遠位部骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	1	橈骨骨幹部骨折	橈骨骨幹部骨折について説明できる。
2	4	17	1	ガレアジ骨折	ガレアジ骨折について説明できる。
3	4	24	1	尺骨骨幹部骨折	尺骨骨幹部骨折について説明できる。
4	5	8	1	モンテギア骨折	モンテギア骨折について説明できる。
5	5	15	1	橈尺両骨骨幹部骨折①	両骨間の解剖を理解し定型的骨片転位を説明できる。
6	5	22	1	橈尺両骨骨幹部骨折②	橈尺両骨骨幹部骨折について説明できる。
7	5	29	1	橈骨遠位端部骨折	橈骨遠位端部骨折について説明できる。
8	6	5	1	コーレス骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
9	6	12	1	スミス骨折①	スミス骨折について説明できる。
10	6	19	1	スミス骨折②	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
11	6	26	1	バートン骨折・ショーファー骨折	バートン骨折・ショーファー骨折について説明できる。
12	7	3	1	手根骨部の骨折	手根骨部の骨折について説明できる。
13	7	10	1	舟状骨骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
14	7	17	1	中手骨部の骨折	中手骨部の骨折について説明できる
15	7	24	1	中主骨骨幹部骨折	実技編を使って整復法・固定法等を習得する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編(第7版)			
	%	柔道整復学・実技編(第2版)			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学 4		学年	3年 期生	
担当者			期別	前期	
単位数	1単位		講義・実習	座学	
時間数・授業回数	30時間 15回		専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学4において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。				
一般目標 (GIO)					
本科目は鎖骨から肘にかけての骨折、脱臼、軟部組織損傷について学ぶ					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	4	16	1	鎖骨部の損傷 I	鎖骨部の機能と解剖が理解できる
2	4	23	1	鎖骨部の損傷 II	鎖骨部の骨折と脱臼が理解できる
3	5	7	1	肩関節部の損傷 I	肩関節部の機能と解剖が理解できる
4	5	14	1	肩関節部の損傷 II	肩甲骨の骨折が理解できる
5	5	21	1	上腕骨近位部の骨折 I	上腕骨頭、解剖頸、外科頸の骨折が理解できる
6	5	28	1	上腕骨近位部の骨折 II	大結節、小結節、近位骨端線離開骨折の理解ができる
7	6	4	1	肩関節脱臼 I	肩関節前方脱臼、後方脱臼の理解ができる
8	6	11	1	肩関節脱臼 II	肩関節下方脱臼、上方脱臼、反復性脱臼の理解ができる
9	6	18	1	肩関節部の軟部組織損傷	筋、腱の損傷が理解できる
10	6	25	1	上腕部の損傷 I	上腕部の機能と解剖が理解できる
11	7	2	1	上腕部の損傷 II	上腕骨の骨折と軟部組織損傷が理解できる
12	7	9	1	肘関節部の損傷 I	肘関節部の機能と解剖が理解できる
13	7	16	1	肘関節部の損傷 II	上腕骨遠位部と前腕骨近位部の骨折が理解できる
14	7	23	1	肘関節脱臼	肘内障が理解できる
15	7	30	1	肘関節部の軟部組織損傷	靭帯の損傷が理解できる
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学 理論編・実技編			
	%				
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

科目名	基礎柔道整復学3	学年	3年 期生
担当者		期別	前期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学5において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢の軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	16	3	鼠径部症候群・ばね股・梨状筋症候群・ペルテス病	股関節の疾患について理解する。
2	4	23	3	すべり症・単純性股関節症・変形性股関節症・大腿骨頭壊死	股関節の疾患について理解する。
3	5	7	3	股関節拘縮・大腿部打撲・四頭筋肉離れ	関節拘縮、肉離れ、打撲の特徴について理解する。
4	5	14	3	ハムスト肉離れ・骨化性筋炎・半月板損傷	肉離れ、骨化性筋炎、半月板損傷について特に理解する。
5	5	21	3	膝関節靭帯損傷	膝関節靭帯損傷についてを理解する。
6	5	28	3	小児膝変形・プラント病・大腿四頭筋拘縮	小児膝関節障害の特徴を理解する。
7	6	4	3	離断性骨軟骨炎・オスグットシュラッター病・ジャンパー膝	特に小児に特徴的な疾患について理解する。
8	6	11	3	分裂膝蓋骨・腸脛靭帯炎・鷲足炎・膝蓋軟骨軟化症	膝周囲の発生が近い障害について理解する。
9	6	18	3	タナ障害・膝蓋大腿関節症・下腿三頭筋肉離れ	膝蓋大腿関節症の特徴について復習する。
10	6	25	3	シンスプリント・足関節捻挫	特にシンスプリントの症状の特徴について理解する。
11	7	2	3	足関節骨軟骨骨折・離断性骨軟骨炎・足根洞症候群・腓骨腱脱臼	足関節の軟骨障害を特に理解する。
12	7	9	3	衝突性外骨腫・三角骨障害・セーバー病・アキレス腱滑液包炎	足部の過剰骨・骨端症について理解する。
13	7	16	3	有痛性外脛骨・踵骨棘・足底腱膜炎・第1ケーラー病・足根管症候群	中足部～後足部の有痛性疾患のについて理解する。
14	7	23	3	外反母趾・強剛母趾・種子骨障害・フライバーグ病・モートン病・扁平足	足趾部の有痛性疾患について理解する。
15	7	30	3	総復習	今期の内容を復習し理解を深める。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学6			学年	2年	期生
担当者				期別	後期	
単位数	1単位			講義・実習	実技	
時間数・授業回数	30時間 15回			専任・兼任	専任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が基礎柔道整復学6において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。					
一般目標(GIO)						
本科目は、特に手根から指の骨に関して総合的に学習し骨折に対する認識と技術の向上を目的とする。						
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)	
1	10	4	1	舟状骨骨折	舟状骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
2	10	11	1	三角骨骨折	三角骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
3	10	18	1	有鉤骨骨折	有鉤骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
4	11	1	1	豆状骨骨折	豆状骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
5	11	8	1	月状骨・大菱形骨・有頭骨骨折	月状骨・大菱形骨・有頭骨の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
6	11	15	1	中手骨骨折①	中手骨頭部の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
7	11	22	1	中手骨骨折②	中手骨骨幹部の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
8	12	6	1	中手骨骨折③	ベネット骨折の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
9	12	13	1	中手骨骨折④	第5中手骨基部骨折の骨損傷についての特徴・治療法を説明することができる	
10	12	20	1	指骨骨折①	基節骨の治療をすることができる	
11	12	27	1	指骨骨折②	中節骨の治療をすることができる	
12	1	10	1	指骨骨折③	末節骨の治療をすることができる	
13	1	17	1	指骨骨折④	マレットフィンガーの分類ができる	
14	1	24	1	指骨骨折⑤	マレットフィンガーの整復・固定ができる	
15	1	31	1	総まとめ	苦手部位の復習	
評価基準			教科書			参考書
期末テスト	100%		柔道整復学・理論編第6版			
			柔道整復学・実技編第2版			
	%					
	%					

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	臨床柔道整復学7	学年	2年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学7において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢骨折の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	10	4	2	骨盤骨折・大腿骨頭骨折	骨盤単独骨折と骨盤輪骨折の違いを理解する。
2	10	11	2	大腿骨頸部骨折	内側骨折と外側骨折の違いを理解する。
3	10	18	2	大腿骨転子部骨折・転子下骨折	転子部骨折の分類を説明できる。
4	11	1	2	大腿骨骨幹部骨折	大腿骨骨幹部骨折について説明できる。
5	11	8	2	大腿骨顆上骨折	大腿骨顆上骨折について説明できる。
6	11	15	2	骨端線離開・内側側副靭帯裂離骨折	膝蓋骨の解剖を復習し、骨折について理解する。
7	11	22	2	膝蓋骨骨折	膝蓋骨の解剖を復習し、骨折について理解する。
8	12	6	2	下腿近位部骨折	下腿骨近位部骨折について説明できる。
9	12	13	2	脛骨顆部骨折	脛骨内顆骨折と外顆骨折の発生機序を理解する。
10	12	20	2	腓骨頭骨折・脛骨粗面骨折	脛骨粗面骨折の鑑別疾患を理解する。
11	12	27	2	下腿骨幹部骨折	下腿骨幹部骨折の後遺症について説明できる。
12	1	10	2	大腿骨顆部骨折・下腿疲労骨折	大腿骨顆部骨折について説明できる。
13	1	17	2	足部脱臼骨折(ラウゲハンセン分類)	距骨の動きを理解し分類について説明できる。
14	1	24	2	足根骨骨折	各足根骨骨折の発生機序を理解する。
15	1	31	2	中足骨骨折・趾骨骨折	趾骨の解剖を理解したうえで骨折について説明できる。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学8	学年	2年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学8において臨床上、遭遇する可能性の高い脱臼について、顎部から肩部までの概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では顎～肩部の機能と解剖を踏まえた上で、発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	1	1	脱臼の定義と顎部の解剖	脱臼の定義と顎部の解剖を説明できる
2	10	8	1	顎関節脱臼の病態	顎関節の脱臼の病態説明ができる
3	10	15	1	顎関節脱臼の整復	顎関節の脱臼の整復方法が説明できる
4	10	22	1	顎関節脱臼の後療法	顎関節脱臼の病態から整復、後療法が説明できる
5	10	29	1	頸椎脱臼の病態	頸椎脱臼の病態が説明できる
6	11	5	1	頸髄損傷の病態と検査	頸椎脱臼による頸髄損傷に伴う病態が説明できる
7	11	12	1	胸椎、腰椎の脱臼の病態	胸椎、腰椎脱臼の病態が説明できる
8	11	19	1	胸髄損傷の病態と検査	胸椎、腰椎脱臼で起きる胸髄や、馬尾神経に伴う病態が説明できる
9	11	26	1	胸鎖関節の脱臼の病態	胸鎖関節の脱臼の病態が説明できる
10	12	3	1	胸鎖関節脱臼の後療法	胸鎖関節の脱臼後の後療法について説明できる
11	12	10	1	肩鎖関節脱臼の病態	肩鎖関節脱臼の病態が説明できる
12	12	17	1	肩鎖関節脱臼の後療法	肩鎖関節脱臼の後療法が説明できる
13	12	24	1	肩関節脱臼の病態	肩関節脱臼の病態が説明できる
14	1	14	1	肩関節脱臼の合併症	肩関節脱臼の合併症が説明できる
15	1	21	1	肩関節脱臼の後療法	肩関節の後療法が説明できる

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	臨床柔道整復学9		学年	3 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験を持つ教員が股関節部の損傷、膝関節部の損傷について教科書を用いて解説する。				
一般目標(GIO)					
股関節部、膝関節部の損傷について、発生機序や症状、治療法を学び疾患の推察などができる力を養うことを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	27	1	骨盤骨単独骨折 骨盤骨輪骨折	骨盤骨単独骨折の発生機序を理解する。 骨盤骨輪骨折の発生機序、合併症を理解する。
2	10	4	1	大腿骨骨頭部骨折 大腿骨頸部骨折	大腿骨頭部骨折の発生機序と症状を理解する。 大腿骨頸部骨折の発生機序、症状、合併症を理解する。
3	10	11	1	大腿骨転子部骨折 大腿骨転子下骨折 股関節脱臼	大腿骨転子部骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 大腿骨転子下骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 股関節脱臼の発生機序、症状、治療法を理解する。
4	10	18	1	梨状筋症候群 股関節拘縮 ペルテス病 単純性股関節炎	梨状筋症候群の発生機序、症状を理解する。 股関節拘縮の症状を理解する。 ペルテス病の発生機序と症状を理解する。 単純性股関節炎の発生機序、症状、治療法を理解する。
5	11	1	1	大腿骨頭すべり症 大腿骨頭壊死症 変形性股関節症	大腿骨頭すべり症の好発年齢、症状を理解する。 大腿骨頭壊死症の分類、症状、治療法を理解する。 変形性股関節症の発生機序、症状、治療法を理解する。
6	11	8	1	大腿骨骨幹部骨折 大腿部打撲 大腿四頭筋肉離れ	骨幹部骨折の発生機序、症状、治療法、合併症を理解する。 大腿部打撲の発生機序、症状、治療法を理解する。 大腿四頭筋肉離れの発生機序、症状、治療法を理解する。
7	11	15	1	ハムストリングス肉離れ 骨化性筋炎 大腿骨顆上骨折 大腿骨遠位骨端線離開	ハムストリングス肉離れの発生機序、症状、治療法を理解する。 骨化性筋炎の症状と治療法を理解する。 大腿骨顆上骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 遠位骨端線理解の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。
8	11	29	1	大腿骨顆部骨折 内側側副靭帯付着部の裂離骨折	大腿骨顆部骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 内側側副靭帯付着部裂離骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。
9	12	6	1	脛骨顆部骨折 脛骨顆間隆起骨折 脛骨粗面骨折 腓骨頭単独骨折	脛骨顆部骨折の発生機序、症状、合併症、治療法を理解する。 脛骨顆間隆起骨折の発生機序、症状、治療法を理解する。 脛骨粗面骨折の発生機序、症状、鑑別診断、治療法を理解する。 腓骨頭単独骨折の発生機序、治療法を理解する。
10	12	13	1	膝関節脱臼 膝蓋骨骨折 膝蓋骨脱臼	膝関節脱臼の発生機序、合併症、治療法、後遺症を理解する。 膝蓋骨骨折の発生機序、転位、症状を理解する。 膝蓋骨脱臼の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。
11	12	20	1	半月板損傷 側副靭帯損傷 十字靭帯損傷	半月板損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。 側副靭帯損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。 十字靭帯損傷の発生機序、症状、検査法を理解する。
12	12	27	1	小児の膝変形 オスグッド・シュラッター病 ジャンパー膝 分裂膝蓋骨	小児の膝変形の発生機序、症状を理解する。 オスグッド・シュラッター病の発生機序、症状、治療法を理解する。 ジャンパー膝の発生機序、症状、治療法を理解する。 分裂膝蓋骨の発生機序、分類、症状、治療法を理解する。
13	1	10	1	腸脛靭帯炎 鷲足炎 膝蓋軟骨軟化症 滑膜ヒダ障害	腸脛靭帯炎の発生機序、症状、検査法、治療法を理解する。 鷲足炎の発生機序、治療法を理解する。 膝蓋軟骨軟化症の症状、徒手検査を理解する。 滑膜ヒダ障害の症状、治療法を理解する。
14	1	17	1	膝蓋大腿関節症 膝周囲の関節包、滑液包の異常	膝蓋大腿関節症の症状、検査、治療法を理解する。 滑液包の部位や炎症などの発生機序を理解する。
15	1	17	2	総腓骨神経麻痺 伏在神経麻痺 離断性骨軟骨炎 変形性膝関節症	総腓骨神経の症状を理解する。伏在神経麻痺の症状を覚える。 離断性骨軟骨炎の症状、治療法を理解する。 変形性膝関節症の発生機序、症状、治療法を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第6版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学10		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30時間・15回		専任・兼任	専任	
実務経験	実務経験のある教員が、各脱臼の発生機序や症状などについて教科書を用いて解説する。				
一般目標(GIO)					
肘関節から手指関節の脱臼までの発生機序や基本的な症状、治療法などを理解する。また各脱臼の注意点についても理解することを目標とする。					
回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	30	2	前腕両骨後方脱臼	発生機序、症状を理解する。
2	10	7	2	前腕両骨後方脱臼	鑑別疾患、合併症、固定法を理解する。
3	10	21	2	前腕両骨前方脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
4	11	11	2	前腕両骨側方脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
5	11	18	2	前腕両骨分散(開排)脱臼	発生機序、整復、固定法を理解する。
6	11	25	2	橈骨頭単独脱臼	合併する骨折、橈骨頭の転位方向、整復、固定法を理解する。
7	12	2	2	肘内障	発生機序、症状、鑑別診断、治療法を理解する。
8	12	9	2	遠位橈尺関節脱臼	発生機序、症状、固定法を理解する。
9	12	16	2	橈骨手根関節脱臼	発生機序、症状、固定、後療法を理解する。
10	12	23	2	月状骨脱臼および月状骨周囲脱臼	好発年齢、発生機序、症状、整復法、固定、後療法を理解する。
11	1	6	2	手根中手指節関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
12	1	20	2	第1指中手指節関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
13	1	22	1	第1指以外の中手指節関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
14	1	23	1	近位指節間関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法を理解する。
15	1	27	2	遠位指節間関節脱臼	発生機序、症状、整復法、固定法、後療法を理解する。
評価基準			教科書		参考書
期末試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学11	学年	2年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学11において臨床上、遭遇する可能性の高い顎関節症から肩関節の軟部組織損傷について、損傷の概要や特徴について、基本的な知識を修得するための講義を行う。		

一般目標 (GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、本科目では、顎関節から肩関節の機能と解剖を踏まえた上で、軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、後療法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	30	1	頭部顔面部の打撲の病態	頭部顔面部の病態を説明できる
2	10	7	1	顎関節症の病態	顎関節の病態を説明できる
3	10	21	1	顎関節の後療法	顎関節の後療法を説明できる
4	11	11	1	外傷性頸部症候群の病態	外傷性頸部症候群の病態を説明できる
5	11	18	1	外傷性頸部症候群の後療法	外傷性頸部症候群の後療法を説明できる
6	11	25	1	胸郭出口症候群寝違えの病態	胸郭出口症候群や寝違えの病態を説明できる
7	12	2	1	肋骨周囲の軟部組織損傷の病態	肋骨周囲の軟部組織損傷の病態を説明できる
8	12	9	1	胸部背部打撲・損傷の病態	胸部背部打撲・損傷の病態を説明できる
9	12	16	1	腰部軟部組織損傷の病態	腰部軟部組織損傷の病態を説明できる
10	12	23	1	腰部軟部組織損傷の後療法	腰部軟部組織損傷の後療法を説明できる
11	1	6	1	肩関節腱板損傷の病態	肩関節腱板損傷の病態を説明できる
12	1	20	1	肩関節スポーツ障害の病態把握	肩関節スポーツ障害の病態を説明できる
13	1	22	2	肩関節周囲炎の病態把握	肩関節周囲炎の病態を説明できる
14	1	23	2	肩関節周囲の神経障害の病態	肩関節周囲の神経障害の病態を説明できる
15	1	27	1	復習	顎から肩までの軟部組織損傷の復習

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第7版	
	%		
	%		
	%		

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学12		学年	2 年 期生	
担当者			期 別	後期	
単 位 数	1 単 位		講義・実習	講義	
時間数・授業回数	30H・15回		専任・兼任	兼任	
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学12において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。				
一般目標 (GIO)					
<p>本科目は、肘関節から指の軟部組織損傷の概要や特徴を学び、正しく鑑別できる知識を修得したうえで、柔道整復師として対応できる整復法・固定法を身につけるための講義をおこなう。</p>					
回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	10	2	4	野球肘	野球肘について説明できる。
2	10	9	4	テニス肘・パンナー病	野球肘とテニス肘の違いを理解する。
3	10	16	4	前腕コンパートメント症候群	コンパートメント症候群の発生機序を理解する。
4	10	23	4	腱交叉症候群・TFCC	TFCCについて説明できる。
5	10	30	4	末梢神経損傷(正中神経)	正中神経損傷について説明できる。
6	11	6	4	末梢神経損傷(尺骨神経)	尺骨神経損傷について説明できる。
7	11	13	4	末梢神経損傷(橈骨神経)	橈骨神経損傷について説明できる。
8	11	20	4	前骨間神経・後骨間神経	本幹との違いを十分に理解する。
9	11	27	4	ドケルバン病・キーンベック病	ドケルバン病について説明できる。
10	12	4	4	マーデルング変形	マーデルング変形について説明できる。
11	12	11	4	ステナー損傷	靭帯損傷(ステナー損傷)について説明できる。
12	12	18	4	ばね指・指ロック	ばね指とロックの違いを十分に理解する。
13	12	25	4	デュプイトラン拘縮・ヘバーデン結節	デュプイトラン拘縮・ヘバーデン結節について説明できる。
14	1	8	4	ボタン穴変形	ボタン穴変形の特有な変形を理解する。
15	1	15	4	スワンネック変形	スワンネック変形の特有な変形を理解する。
評価基準			教科書		参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改訂第7版			
	%	柔道整復学・実技編 改訂第2版			
	%				
	%				

1限目 (9:00~10:30)

2限目 (10:40~12:10)

3限目 (12:40~14:10)

4限目 (14:20~15:50)

科目名	臨床柔道整復学13	学年	3年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1単位	講義・実習	講義
時間数・授業回数	30時間・15回	専任・兼任	専任
実務経験	臨床経験を持つ教員が臨床柔道整復学13において柔道整復術の基本となるものを教科書を使いながら解説する。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた柔道整復術を的確に修得するために、
本学科では、下肢の骨折・脱臼・軟部組織損傷の発生機序、症状、合併症、整復法等を修得する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	9	27	3	下腿骨幹部骨折	特に装具療法(PTBキャスト)について理解する。
2	10	4	3	腓骨骨幹部単独骨折	整復法を理解する。
3	10	11	3	下腿骨果上骨折・疲労骨折	疲労骨折の分類と鑑別疾患について理解する。
4	10	18	3	下腿軟部組織損傷①	アキレス腱断裂・アキレス腱周囲炎・アキレス腱断裂の違いを理解する。
5	11	1	3	下腿軟部組織損傷②	下腿三頭筋肉離れ・シンスプリント・コンパートメント症候群について理解する。
6	11	8	3	下腿遠位端部脱臼骨折①	回内外転損傷・回外内転損傷を理解する。
7	11	15	3	下腿遠位端部脱臼骨折②	回内外旋損傷・回外外旋損傷を理解する。
8	11	22	3	足根骨骨折①	踵骨骨折の分類を理解する。
9	11	29	3	足根骨骨折②	距骨骨折の後遺症を理解する。
10	12	6	3	足関節靭帯損傷	内側側副靭帯損傷・外側側副靭帯損傷の各症状を理解する。
11	12	13	3	足部軟部組織損傷①	三角骨障害・衝突性外骨腫・足根洞症候群を理解する。
12	12	20	3	足根骨骨折③	舟状骨骨折・立方骨骨折・楔状骨折の各症状を理解する。
13	12	27	3	足部軟部組織損傷②	ショパール関節・リスフラン関節損傷・指節間関節脱臼の各症状を理解する。
14	1	10	3	足部軟部組織損傷③	セーバー病・外脛骨・足底腱膜炎
15	1	17	3	足部軟部組織損傷④	フライバーグ病・モートン病・外反母指・第1ケーラー病の鑑別を理解する。

評価基準		教科書	参考書
筆記試験	100%	柔道整復学・理論編 改定第6版	
	%	柔道整復学・実技編 改定第2版	
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)

科目名	物理療法機器の取り扱い	学年	1 年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1 単 位	講義・実習	実技・座学
時間数・授業回数	15時間 8回	専任・兼任	専任
実務経験	接骨院・機能訓練業務6年・専任教員6年		

一般目標(GIO)

本科目は、物理療法機器の取り扱いに関わる人体の構造、物理療法機器の取り扱いに関連した内容を学ぶ。
また、その中でも上肢の骨折、脊柱の骨折に対応した内容を身につける。

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	11	19	4	電気療法の取り扱い	電気刺激の効果・生体反応について説明することができる
2	11	26	4	温熱療法の取り扱い	温熱刺激を加えた時の生体反応を説明することができる
3	12	3	4	光線療法の取り扱い	光線の種類について理解し正しく使うことができる
4	12	10	4	寒冷療法の取り扱い	寒熱のもつエネルギーの特徴を理解することができる
5	12	17	4	牽引・圧迫療法の取り扱い	靭帯の構造を正しく理解し安全に牽引・圧迫をおこなうことができる
6	12	24	4	安全対策・禁忌	治療を行う際の患者に対する安全を正しく理解する
7	1	14	4	脊柱・上肢の構造1	正しく治療するために対象となる構造を詳細に理解する
8	1	21	4	脊柱・上肢の構造2	正しく治療するために対象となる構造を詳細に理解する
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
評価基準			教科書		参考書
期末テスト	50%	解剖学			
レポート(学会参加等)	50%	柔道整復理論			
	%				
	%				

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

科目名	柔道整復術適応の臨床的判断	学年	3 年 期生
担当者		期別	後期
単位数	1 単位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	福岡市内の専門学校にも長年勤務し、臨床経験も25年と豊富。□		

一般目標 (GIO)

柔道整復師が医療における役割を理解し、柔道整復術適応と整形外科へ紹介する基準を理解する。

回数	月	日	限目	項目	行動目標 (SBOs)
1	9	26	2	柔道整復術の適否	柔道整復術の適応を大まかに説明できる。
2	10	3	2	類似した症状を示す疾患	適応疾患以外の症状・疾患を理解できる。
3	10	10	2	感染症・圧迫損傷	感染症・軟部組織の圧迫損傷を理解できる。
4	10	17	2	血流障害を伴う損傷	血管損傷を合併する損傷を理解できる。
5	10	24	2	末梢神経損傷を伴う損傷	神経損傷の症状を説明できる。
6	10	31	2	脱臼骨折	脱臼骨折の概要を理解できる。
7	11	7	2	外出血を伴う損傷	開放性骨折のリスクを説明できる。
8	11	14	2	前回までの項目の確認試験	知識を定着することを目的とする。
9	11	21	2	病的骨折および脱臼	病的骨折・脱臼の概念を理解できる。
10	11	28	2	意識障害を伴う損傷	頭部外傷の概要を理解できる。
11	12	5	2	脊髄症状のある損傷	脊髄損傷を起こしうる疾患を想起できる。
12	12	12	2	呼吸運動障害を伴う損傷	胸部外傷に伴うリスクについて理解できる。
13	12	19	2	内臓損傷の合併が疑われる損傷	内臓損傷を伴う損傷を想起できる。
14	12	26	2	高エネルギー外傷	高エネルギー外傷時に起こりうる疾患を想起できる。
15	1	9	2	第1～14回の総復習	第1～14回の復習を行い、知識を深め説明できる。
評価基準			教科書		参考書
		%			
		%			
		%			
		%			

1限目 (9:00～10:30)

2限目 (10:40～12:10)

3限目 (12:40～14:10)

4限目 (14:20～15:50)

科目名	圧迫包帯学	学年	1 年 期生
担当者		期 別	前期
単位数	1 単 位	講義・実習	実技
時間数・授業回数	30時間 15回	専任・兼任	兼任
実務経験	臨床経験を持つ教員が圧迫包帯学において基本的な固定具や包帯の知識とそれを扱う技術を修得するための講義を行う。		

一般目標(GIO)

柔道整復術の理論に基づいた包帯学を修得するために、本科目では各包帯の特性を理解しつつ、包帯の管理の方法から、基礎的な部位別の包帯法を修得する

回数	月	日	限目	項目	行動目標(SBOs)
1	4	10	3	包帯の名称と持ち方	包帯の名称と持ち方が説明できる
2	4	17	3	包帯の巻き方と巻き戻し方	包帯の巻き方と巻き戻し方が実践できる
3	4	24	3	基本包帯法の指導	慣行帯などの基礎の包帯法がわかる
4	5	8	3	上肢の螺旋帯と折転帯の指導	上肢(前腕)の螺旋帯と折転帯を実践できる
5	5	15	3	上肢の螺旋帯と折転帯と亀甲帯	上肢(前腕や肘)の螺旋帯と折転帯を実践できる
6	5	22	3	上肢の麦穂帯の指導	上肢(前腕や手首、親指)の麦穂帯ができる
7	5	29	3	下肢の螺旋帯と折転帯	下肢(下腿)の螺旋帯と折転帯が実践できる
8	6	5	3	下肢の螺旋帯と折転帯と亀甲帯	下肢(下腿や膝)の螺旋帯と折転帯が実践できる
9	6	12	3	下肢の折転帯と亀甲帯と麦穂帯	下肢(膝、足)の螺旋帯と麦穂帯が実践できる
10	6	19	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
11	6	26	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
12	7	9	3	冠名包帯の指導 デゾー	冠名包帯の指導 デゾーが実践できる
13	7	10	3	冠名包帯の指導ヴェルポー	冠名包帯の指導ヴェルポーが実践できる
14	7	17	3	冠名包帯の指導ヴェルポー、ジュール	冠名包帯の指導ヴェルポーが実践できる
15	7	24	3	冠名包帯の指導ジュールとデゾー	冠名包帯の指導ジュールとデゾーが実践できる

評価基準		教科書	参考書
実技試験	100%	包帯固定学	
	%		
	%		
	%		

1限目(9:00~10:30)

2限目(10:40~12:10)

3限目(12:40~14:10)

4限目(14:20~15:50)